

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 2 0 0 8 年 6 月 調 査 結 果 - -

2 0 0 8 年 6 月 3 0 日

日 本 商 工 会 議 所

< 結果のポイント >

6月の全産業合計の業況DIは 56.0と、5年ぶりにマイナス50台(50.4)を記録した4月から、さらに厳しさが強まっている。中でも建設業の業況DIは 67.7と、仕入価格の増加や受注の減少などの影響により、特に厳しい状況となっている。

全産業合計の仕入単価DIは 59.8となり、1991年5月の同DI調査開始以来、最悪の水準を更新。また、仕入単価の他、売上、採算、資金繰り、従業員などすべてのDIは、前月から悪化した。

引き続き、原油・原材料価格の高騰に伴うコストの増加や、食料品をはじめとする物価の上昇に伴う消費の低迷による売上減少などの影響から、採算の悪化を訴える声が非常に多い。採算の悪化に伴う賃金の伸び悩み等により、消費低迷・売上減少・採算悪化となる悪循環が懸念される。

こうした悪影響から、倒産や廃業など、これまで以上に厳しい状況を訴える声も、前月以上に寄せられている。

L O B O 調 査 は、地 域 に お け る 毎 月 の 景 気 動 向 を 調 査 す る も の で あり、当 該 月 の 景 況 に 係 る 調 査 結 果 を 最 も 早 く 集 計 ・ 公 表 し て お り ま す (1 9 8 9 年 4 月 調 査 開 始)。

調 査 期 間 : 2 0 0 8 年 6 月 1 7 日 ~ 2 3 日

調 査 対 象 : 全 国 の 4 0 4 商 工 会 議 所 が 2 5 8 0 業 種 組 合 な ど に ヒ ア リ ン グ

(内 訳) 建 設 業 3 8 0 製 造 業 6 1 7 卸 売 業 2 3 5

小 売 業 7 3 7 サ ー ビ ス 業 6 1 1

調 査 項 目 : 今 月 の 業 況 ・ 売 上 ・ 採 算 な ど に つ い て の 状 況 (D I 値 を 集 計) お よ び 業 界 と し て 当 面 す る 問 題 な ど

D I 値 (景 況 判 断 指 数) に つ い て

D I 値 は、業 況 ・ 売 上 ・ 採 算 な ど の 各 項 目 に つ い て の、判 断 の 状 況 を 表 す。ゼ ロ を 基 準 と し て、プ ラ ス の 値 で 景 気 の 上 向 き 傾 向 を 表 す 回 答 の 割 合 が 多 い こ と を 示 し、マ イ ナ ス の 値 で 景 気 の 下 向 き 傾 向 を 表 す 回 答 の 割 合 が 多 い こ と を 示 す。し た が っ て、売 上 高 な ど の 実 数 値 の 上 昇 率 を 示 す も の で は な く、強 気 ・ 弱 気 な ど の 景 況 感 の 相 対 的 な 広 がり を 意 味 す る。

D I = (増 加 ・ 好 転 な ど の 回 答 割 合) - (減 少 ・ 悪 化 な ど の 回 答 割 合)

業 況 ・ 採 算 : (好 転) - (悪 化) 売 上 : (増 加) - (減 少)

【 本 件 担 当 】 産 業 政 策 部 T E L : 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6

E-M a i l : s a n g y o @ j c c i . o r . j p

本 調 査 結 果 は 日 商 ホ ー ム ペ ー ジ (<http://www.jcci.or.jp>) で も ご 覧 に な れ ま す。

【2008年6月調査結果の概要】

業況はさらに悪化、仕入単価D Iは最悪の水準に

6月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（52.9）よりマイナス幅が3.1ポイント拡大し56.0となり、3カ月連続で悪化するなど、さらに厳しい状況となった（02年2月以来の低水準）。

産業別の業況D Iは、すべての業種でマイナス幅が拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、製造など一部に好調（鉄鋼、機械関係の受注増加等）、先行き期待という声があるものの、仕入価格の高騰に伴う採算の悪化、消費の低迷による売上の減少などを訴える声が多く聞かれる。

各業界から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】

- ・「公共工事の発注が例年に比べて遅く、資材価格の上昇も影響し、売上が予想以上に悪化」（一般工事業）
- ・「受注の減少に加え、受注単価の低下により採算が悪化し、倒産も発生」（一般工事業）
- ・「受注の確保が困難な中、競争の激化やガソリンなど諸経費の高騰により、収益の確保は厳しい状況」（建築工事業）

【製造業】

- ・「原材料価格の高騰が続く一方、販売価格への転嫁は需要の減少が見込まれ難しい状況」（パン・菓子製造業）
- ・「受注は前年並みだが、原材料価格が上昇しており、収益は減少」（工業用ゴム製品製造業）
- ・「原油高の影響はすべての面で大きく、今後は倒産の増加を懸念」（金属加工機械製造業）

【卸売業】

- ・「食品をはじめ、多くの仕入価格の高騰が止まらず、採算が悪化」（各種商品卸売業）
- ・「仕入価格の上昇に伴う販売価格への転嫁を図るも、採算の好転までには及ばない状況」（各種商品卸売業）
- ・「値上げを実行したが予想以上に原油価格等が上昇しており、再度値上げをすることは難しく、非常に厳しい状況」（建築材料卸売業）

【小売業】

- ・「諸物価の高騰に伴う消費者の買い控えの傾向がさらに強くなり、食料品・日用品以外の売上が大幅に減少」（百貨店）
- ・「原油価格高騰の影響により、車での来客数が減少し、売上也悪化」（商店街）
- ・「売上の減少傾向が続き、今月も閉店が発生、商店街の半分が空き店舗となるなど厳しい状況」（商店街）

【サービス業】

- ・「原材料価格の高騰が続く中、売上悪化の懸念から、販売価格への転嫁は困難な状況」（食堂・レストラン）
- ・「重油、電気、ガス料金等の上昇に伴い、採算が悪化」（旅館）
- ・「売上と採算の悪化に伴い廃業が発生するなど、厳しい状況」（一般飲食店）

全産業合計の売上DIは、マイナス幅が2.6ポイント拡大して44.1となり、3カ月連続で悪化した。産業別にみても、DI値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

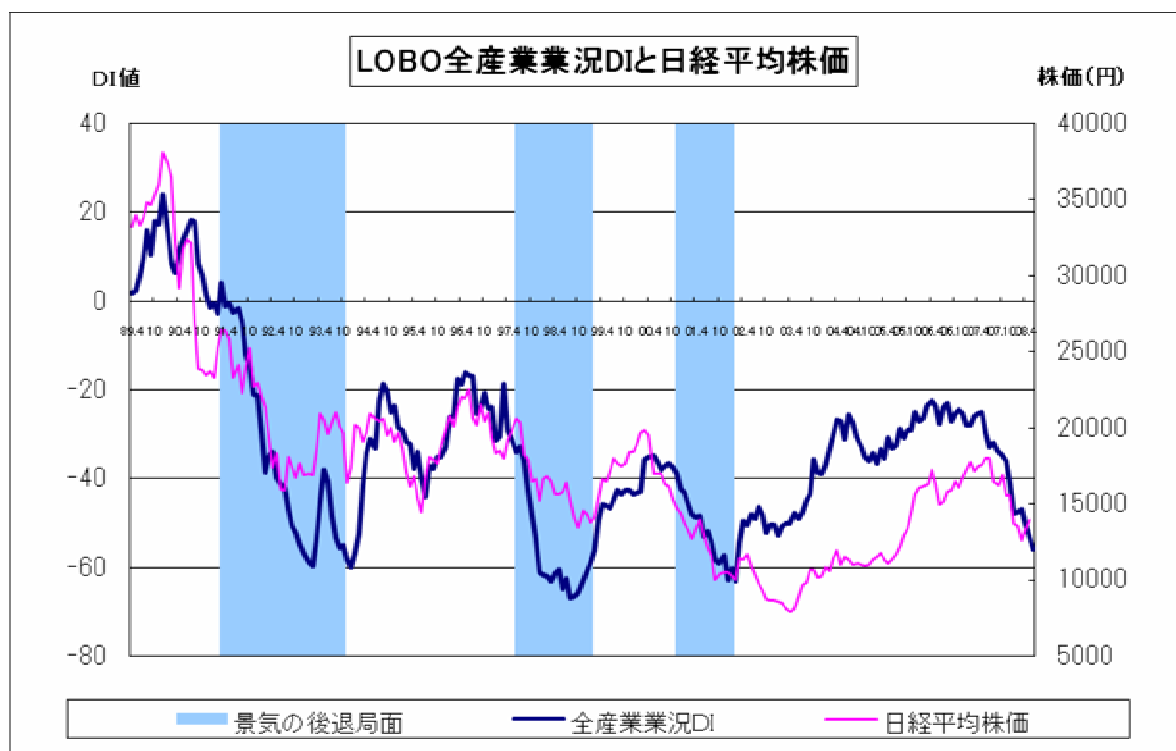
全産業合計の採算DIは、マイナス幅が3.6ポイント拡大して54.0となり、3カ月連続で悪化した。産業別にみても、DI値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

全産業合計の資金繰りDIは、マイナス幅が0.9ポイント拡大して31.9となり、3カ月連続で悪化した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は製造、卸売、小売で拡大し、他の2業種も引き続き低水準で推移している。

全産業合計の仕入単価DIはマイナス幅が4.1ポイント拡大して59.8となり、調査開始以来最悪の水準となった。産業別にみても、仕入単価の上昇感は、すべての業種で強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員DIは7.9と、過剰感は2カ月連続で強まった。産業別にみても、DI値はサービスで過剰感が弱まったものの、小売で不足感が弱まり、他の3業種で過剰感が強まった。

向こう3カ月(7月~9月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)は52.1と、昨年同時期の先行き見通し(25.1)に比べて27ポイントも悪化している。産業別にみても、すべての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、17ポイント以上マイナス幅が拡大している。



【業況についての判断】

6月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 52.9 ）よりマイナス幅が3.1ポイント拡大して 56.0 となり、3カ月連続で悪化した（02年2月以来の低水準）。

産業別にみても、D I 値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。中でも建設は02年4月以来、小売は02年2月以来の低水準。

向こう3カ月（7月～9月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 52.1 と、昨年同時期の先行き見通し（ 25.1 ）に比べて27ポイントも悪化している。

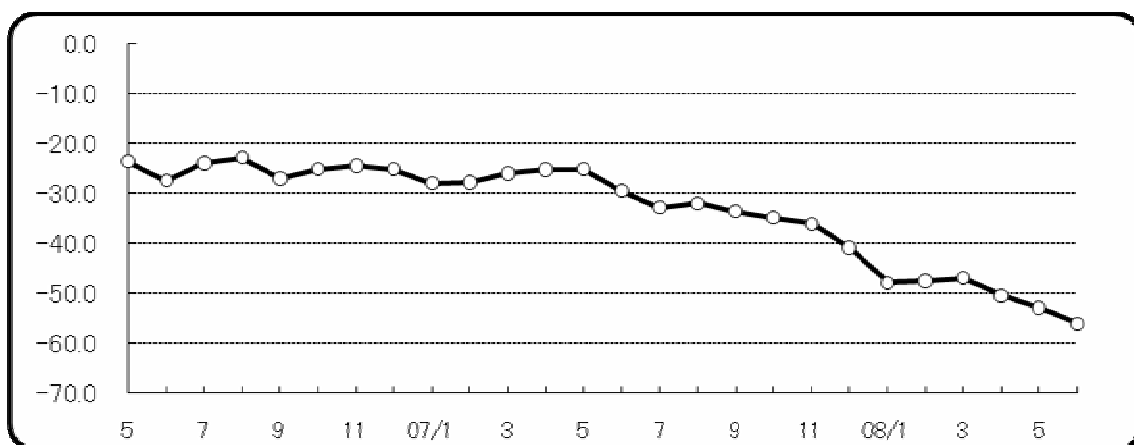
産業別にみても、すべての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、17ポイント以上マイナス幅が拡大している。

業況D I（前年同月比）の推移

	08年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	47.9	47.5	46.9	50.4	52.9	56.0	52.1 (25.1)
建設	58.1	57.7	59.4	64.6	65.0	67.7	60.5 (43.2)
製造	40.4	40.3	41.3	43.1	49.0	52.4	50.4 (25.9)
卸売	55.6	57.7	47.3	53.6	49.1	52.6	44.8 (25.0)
小売	49.2	49.1	48.4	52.8	52.6	57.7	54.2 (20.3)
サービス	44.5	42.7	43.3	44.4	50.6	51.2	48.6 (18.0)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年6月の先行き見通しD I < 以下同じ >

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が2.6ポイント拡大して44.1となり、3カ月連続で悪化した（03年6月以来の低水準）。産業別にみても、D I値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。中でも、建設は03年4月以来、製造は03年6月以来の低水準。

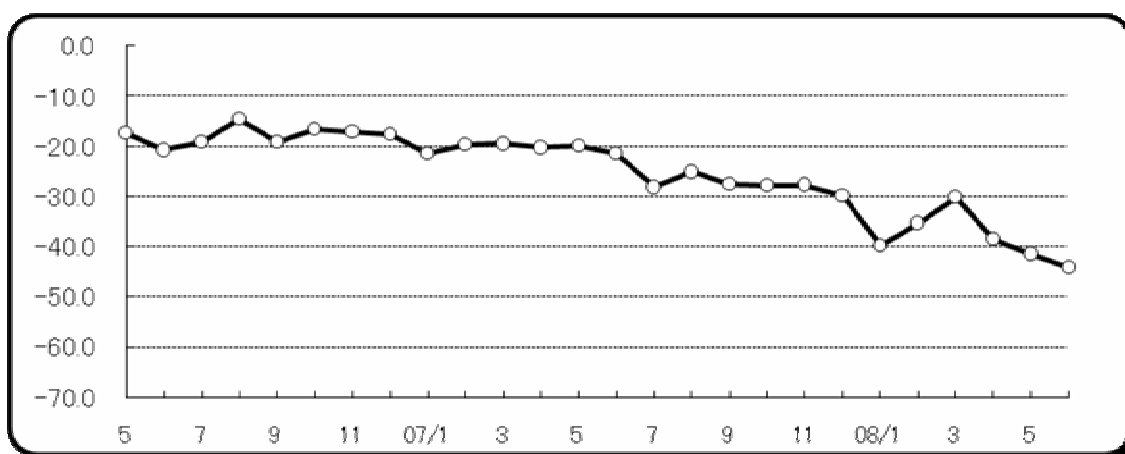
向こう3カ月（7月～9月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）が39.7と、昨年同時期の先行き見通し（17.1）に比べ22ポイント以上悪化している。

産業別にみても、昨年同時期の先行き見通しに対し、すべての業種で悪化している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	08年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	39.8	35.4	30.1	38.6	41.5	44.1	39.7 (17.1)
建設	55.7	51.9	53.0	54.3	58.6	62.2	54.5 (32.5)
製造	24.0	20.3	19.5	25.5	29.9	33.0	32.8 (17.4)
卸売	52.0	47.0	29.3	42.1	33.1	39.2	31.2 (18.9)
小売	43.9	35.2	26.8	42.0	46.5	48.7	44.1 (12.3)
サービス	36.6	36.9	31.5	36.4	39.9	40.2	35.4 (11.4)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が3.6ポイント拡大して54.0となり、3カ月連続で悪化した(02年2月以来の低水準)。産業別にみても、D I値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。中でも、建設は98年7月以来、サービスは99年1月以来の低水準。

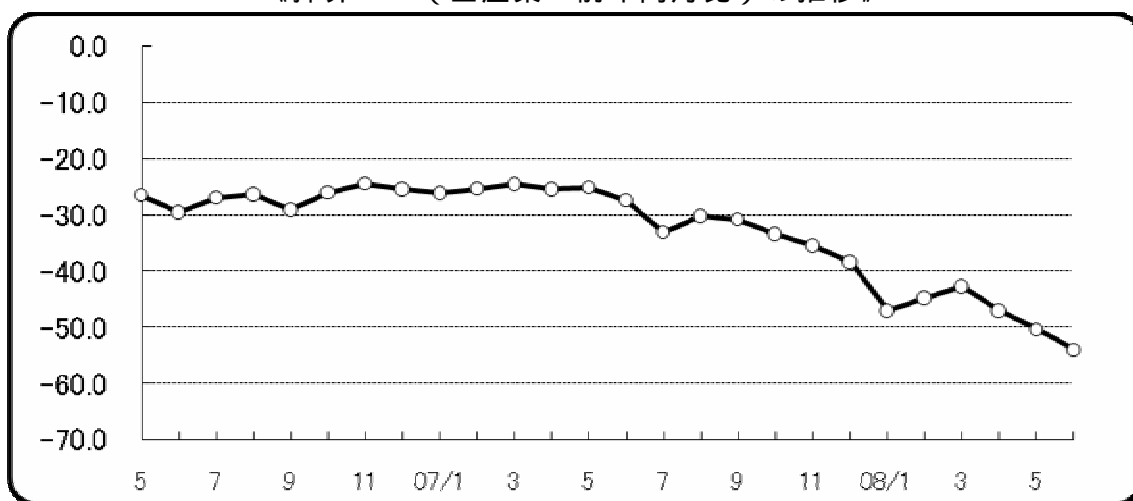
向こう3カ月(7月~9月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が48.8と、昨年同時期の先行き見通し(23.4)に比べて25ポイント以上悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種で約17ポイント以上マイナス幅が拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	08年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	47.1	44.9	42.8	47.1	50.4	54.0	48.8 (23.4)
建設	63.0	57.7	62.8	61.4	63.5	70.9	60.1 (41.3)
製造	43.8	40.3	42.1	46.1	50.6	54.4	49.4 (28.2)
卸売	43.3	53.3	44.0	41.7	39.9	44.2	35.1 (18.2)
小売	44.4	40.9	34.2	42.7	46.9	48.2	48.2 (16.7)
サービス	45.3	43.2	41.1	45.9	50.0	53.0	47.0 (16.5)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	08年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	28.5	31.0	28.4	30.3	31.0	31.9	32.9 (18.6)
建設	45.1	48.7	46.3	43.5	47.6	46.6	46.6 (35.0)
製造	25.1	25.0	25.3	25.3	31.3	34.2	35.7 (17.6)
卸売	24.8	27.3	20.9	28.8	24.3	27.5	25.4 (19.6)
小売	27.6	30.2	25.5	30.0	24.9	26.2	25.3 (13.8)
サービス	23.5	28.9	26.9	27.7	29.4	27.5	32.2 (13.7)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは、3カ月連続で悪化した(03年6月以来の低水準)。産業別にみると、D I値のマイナス幅は製造、卸売、小売で拡大し、他の2業種も引き続き低水準で推移している。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で悪化が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	08年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	48.4	49.8	51.6	55.9	55.7	59.8	55.3 (28.0)
建設	59.0	56.3	59.2	67.2	70.1	71.5	63.5 (34.9)
製造	60.7	59.0	60.5	63.5	63.2	68.1	59.0 (42.7)
卸売	31.1	42.0	47.3	44.1	45.7	48.7	51.9 (26.4)
小売	38.7	41.7	42.7	49.0	48.2	52.6	51.0 (17.0)
サービス	46.9	48.6	49.7	53.4	51.2	56.1	52.1 (21.7)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは、調査開始以来最悪の水準を更新し、59.8となった。産業別にみても、仕入単価の上昇感は、すべての業種で強まり、調査開始以来、最悪の水準を更新した。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	08年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	4.0	4.1	3.8	3.8	6.5	7.9	8.3 (2.8)
建設	15.9	20.3	22.2	20.9	21.3	25.6	23.7 (19.8)
製造	2.2	2.2	2.0	3.8	6.2	9.1	8.6 (0.6)
卸売	6.6	6.0	7.4	6.6	6.7	10.4	8.5 (9.5)
小売	0.0	1.7	3.9	2.0	0.6	0.2	2.5 (2.4)
サービス	2.2	2.1	2.5	1.6	5.4	3.1	4.5 (3.2)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは 7.9と、過剰感は2カ月連続で強まった(04年5月以来の低水準)。産業別にみると、D I値はサービスで過剰感が弱まったものの、小売で不足感が弱まり、他の3業種で過剰感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が強まる見通し。産業別にみると、卸売で過剰感が弱まるものの、小売、サービスで過剰感に転じ、他の2業種で過剰感が強まる見通し。

【2008年6月の景気キーワード】

更なる悪化への懸念

各業種から、業況の悪化に伴う更なる先行き不安を訴える声が寄せられている。建設からは、「原油価格の高騰に伴う諸経費の増加に歯止めがかからず、今後はさらに厳しい状況となる見込み」(習志野・土木工事業)、「採算の悪化に伴い倒産が増加する一方、資金繰りも厳しくなるなど、非常に厳しい状況」(松山・電気工事業)とのコメント、製造からは、「5月、6月と例年にないほど受注が減少し、今後も厳しい状況が続く見込み」(熊本・その他の製造業)との声が寄せられている。また、小売からも、「原油・原材料価格の高騰は、お中元ギフトの価格にも影響しており、受注件数の減少を懸念」(盛岡・百貨店)といったコメントが寄せられている。

仕入コストの更なる上昇

各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの更なる上昇を訴える声が寄せられている。建設からは、「昨年に比べて鉄の価格が2倍になるなど、収益の確保が難しい状況」(焼津・土木工事業)とのコメント、製造からは、「資材価格の高騰や製造コストの上昇により、経営は赤字採算」(函館・水産食料品製造業)、「小麦粉価格が前年比で2倍となるなど、原材料価格がすべて値上がりしており、収益が大幅に減少」(池田・パン・菓子製造業)との声が寄せられている。また、小売、サービスからも、「原油価格の高騰に伴い、光熱費等の経費が増加」(一宮・百貨店)、「食材・包装資材・光熱費等の上昇が収益を圧迫」(西条・食堂・レストラン)といったコメントが寄せられている。

消費意欲の低下

原油価格の高騰や、食料品をはじめ各種商品の値上げに対する不安感から、消費者の購買意欲の低下による売上悪化などの影響を挙げる声も寄せられている。小売からは、「原油価格の高騰に伴う消費意欲の低下により、衣料品や高額商品の売上が悪化」(盛岡・百貨店)、「来客数の減少など、月を追うごとに厳しい状況となっている」(金沢・百貨店)、「お中元商戦が始まったが、売上は前年比で大幅に減少する見込み」(静岡・百貨店)とのコメント、サービスからは、「外食を控える傾向が見られ、来客数・売上ともに悪化」(釜石・食堂・レストラン)、「以前に比べて日帰り客が増加し、宿泊客数は減少」(長野・旅館)といったコメントが寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
08年 4月	更なる悪化への懸念	仕入コストの更なる上昇	暫定税率失効の影響
5月	更なる悪化への懸念	仕入コストの更なる上昇	消費意欲の低下
6月	更なる悪化への懸念	仕入コストの更なる上昇	消費意欲の低下

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

本文中の()内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D I、売上D Iは4カ月連続、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「公共工事の減少と、原油価格高騰の影響に伴う仕入れ単価の上昇により、採算が悪化」、「低価格受注による収益の悪化に伴う倒産が後を絶たず、関連企業の連鎖倒産も発生」、「資材価格が高騰し、受注価格を上回る状況の中、単品スライド条項の速やかな適用を期待」(すべて一般工事業)「受注は低価格の工事のみで、原材料価格の高騰が続く中、収益確保は困難な状況」(土木工事業)といった声が寄せられている。
製 造	業況D I、採算D Iは4カ月連続、売上D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「原材料価格の高騰分を製品価格に転嫁できない中、さらなる値上げが実行された影響で、廃業も発生」(調味料製造業)「原油価格の高騰に伴う諸経費の予想を上回る増加により、収益が大幅に悪化」(織物製造業)「仕入価格の上昇に対し、製品の値上げが追い付かない状況」(有機化学製品製造業)「燃料費の高騰により生産コストが増加し、収益の確保が難しい状況」(他の窯業・土石製造業)「全体的に受注量が少なく、従業員の削減を検討する企業が増加」(金属加工機械製造業)といった声が寄せられている。
卸 売	業況D I、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「食料品価格の値上げの影響による売上の悪化に加え、原油価格の高騰により物流コストも上昇し、採算が悪化」、「原油価格高騰の影響に伴う鮮魚の仕入価格の上昇が、採算を圧迫」(ともに各種商品卸売業)「製材価格の上昇や、建築確認の遅れによる受注の減少など、建築関連業者は厳しい状況」(建築材料卸売業)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは2カ月ぶり、売上D I、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「売上は順調だが、仕入価格が上昇しており、採算は悪化」、「原油価格高騰の影響で、車による遠方からの来客数が減少」(ともに百貨店)「特に土日の来客数が大幅に減少するなど、収益確保が難しい状況」(その他の小売業)「安価な商品の売上は好調だが、一方で高級品の販売は厳しい状況」(インターネットなど無店舗販売の増加の影響で、売上が減少) (商店街) といった声が寄せられている。
サービス	業況D Iは4カ月連続、売上D I、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「鮮魚、乳製品、小麦製品の価格が大幅に上昇し、採算が悪化」(食堂・レストラン)「今月は悪天候が続き、来客数が減少」(喫茶店)「諸物価高騰の影響に伴う来客数の減少に加え、食材価格が再上昇し収益を圧迫するなど、厳しい状況」(他の一般飲食店)「原油価格の高騰により車での来客数が減少。公共交通機関がないため、宿泊客数も減少傾向」(旅館) といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）は、北海道、中国、四国では低水準で推移する一方、他の6ブロックは拡大した。また、全ブロック合計は3カ月連続でマイナス幅が拡大した。

なお、悪化幅が大きい東海ブロックにおいては、製造業の業況悪化が顕著であったが、これは、輸出関連の製造業が、米国経済の不振や内需低迷などの影響を受けたものとみられる。

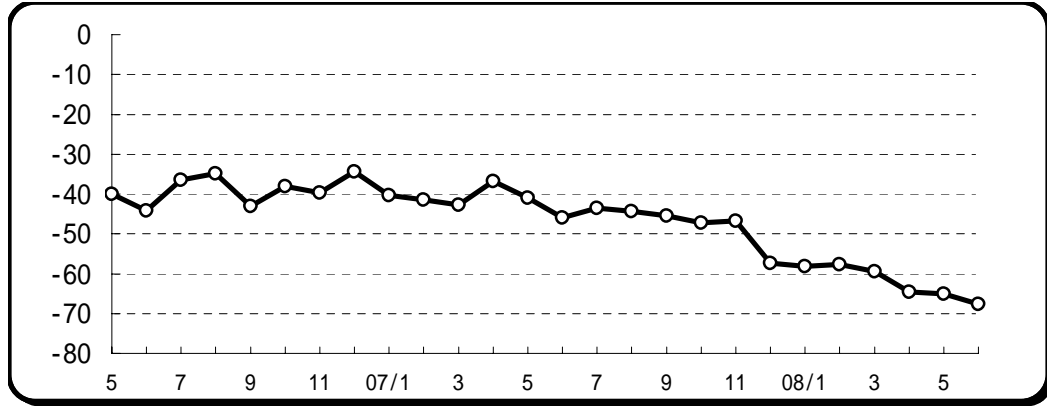
ブロック別の向こう3カ月（7月～9月）の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべてのブロックで悪化している。また、全ブロック合計も悪化している。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

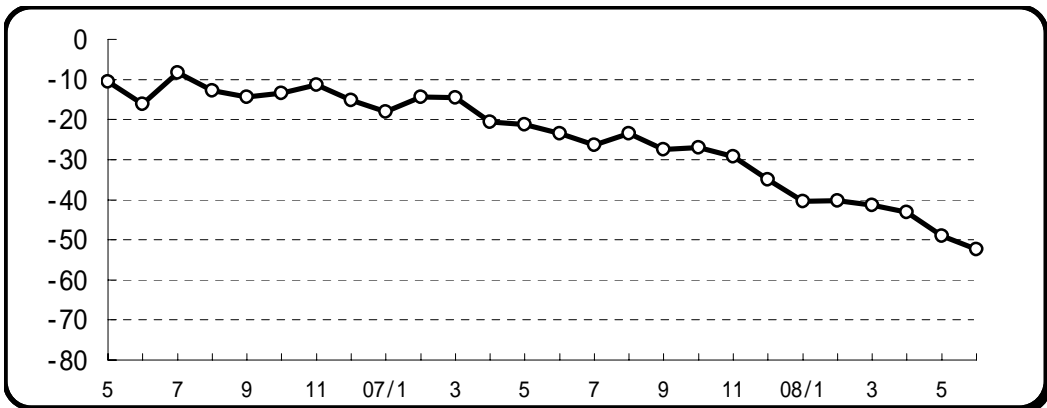
	08年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全 国	47.9	47.5	46.9	50.4	52.9	56.0	52.1 (25.1)
北 海 道	50.4	49.5	52.5	55.0	56.7	56.2	57.9 (26.4)
東 北	49.3	48.6	53.0	54.3	51.3	59.7	54.8 (29.9)
北陸信越	48.8	50.0	41.9	47.6	52.4	55.4	42.9 (21.6)
関 東	44.8	43.2	44.1	46.5	51.2	56.0	49.5 (20.9)
東 海	40.8	48.7	42.6	45.8	47.8	56.7	60.0 (26.6)
近 畿	54.2	53.4	54.1	49.6	55.2	57.9	53.5 (26.0)
中 国	54.5	53.0	50.4	62.0	57.1	56.2	56.2 (27.8)
四 国	44.4	40.6	44.4	50.4	54.2	50.4	54.9 (34.6)
九 州	46.2	45.6	43.3	53.1	53.5	55.2	47.2 (21.3)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

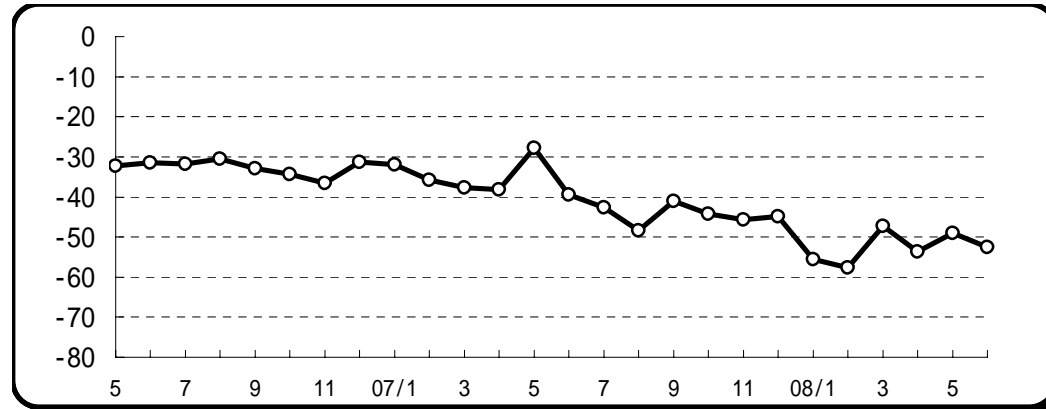
建設業



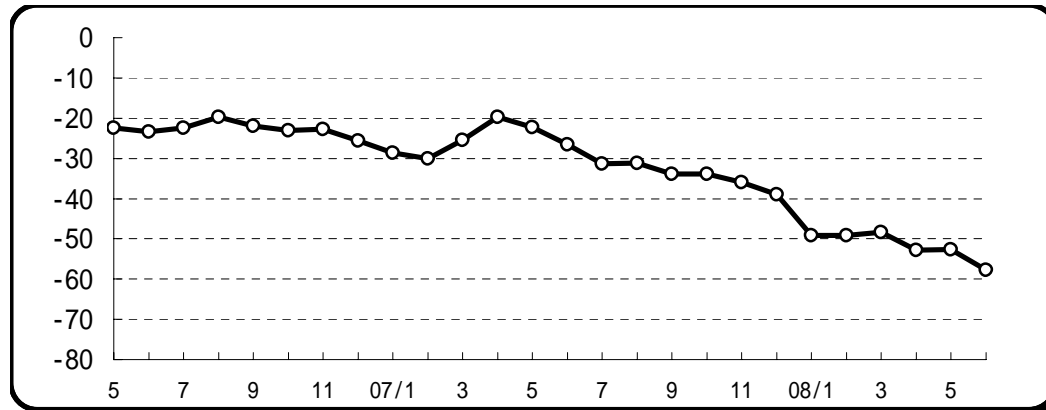
製造業



卸売業



小売業



サービス業

